

「私たちの税金を使っているんだから、しっかりがんばってよ。」

塾の面談の時、先生に言われた一言だった。私は、月一回程度、長野県での合宿に参加し、スケルトンに取り組んでいる。先生の一言で私は、合宿などへの補助金が税金なのか気になった。

私は、J-スタープロジェクトで選ばれ、スケルトンという競技に出逢った。J-スタープロジェクトは、将来オリンピック・パラリンピックなどの国際競技大会に出場してみたい若いアスリートや障がい者の夢を応援し、世界で輝く未来のトップアスリートを発掘するプロジェクトだ。

「日本スポーツ振興センターからの委託事業であり、委託金をいただいて事業を行っている。収支に関してのチェックがものすごく細かく、報告書は、スポーツ庁まで行く。」

と、日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟の方に教えていただいた。今年行われている東京オリンピック・パラリンピックでも、このプロジェクトによって夢を叶えた人もいるそうだ。東京オリンピック・パラリンピックは、見ている私にも感動を与え、夢や希望、いろいろなことを考えさせられた。そして、夢を叶えるためにも税金が役立っていることに初めて気づかされた。これまで、私にとって税金は、取られるものでしかなかった。飲食にも消費税がかかり、国民に納税の義務があることは大変で、損をしているような気さえしていた。

改めて、私たちの暮らしと税金を調べると様々な関わりがあることが分かった。教科書の無償など、私たち中学生一人当たりの年間教育費負担額が、約四万円もかかっていることに驚きであった。税金の助けがあるからこそ、誰もが中学校に通え、学ぶことができるのだと思う。私は、この夏休み中、歯医者に通ったが、医療費は無料だった。こういった医療面でも、税金が私たちの暮らしを支えてくれている。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大により私たちの生活は、おびやかされている。ワクチン接種費用、医療器具や医療従事者を支える費用など、新型コロナウイルス対策のためにも税金が大きな役割を果たしているのだと思う。

税金は、私たちが豊かで安心した暮らしができるようにと支えてくれている。私がスケルトンに取り組めるのも誰かの納めた税金のおかげである。普通に勉強できることも、病院に通えることも、あたり前だと思っていたことの多くは、税金にお世話になっている。心から感謝し、今も精一杯生きていきたい。そして、いつか私が社会人になったとき、私も支える側の一人としてがんばりたい。全ての人が、あたり前に幸せな毎日が送れるような社会であって欲しいと願っている。